「華飾」技術に、強い手応え

約1千人が来場し注目集める

天昇電気工業㈱は、IPF2017においてプラスチック製品に様々な機能性とデザイン性を付加することが可能な「華飾」技術と、オリジナル商品のゲリラ豪雨による河川や下水の氾濫を抑制する雨水貯留浸透槽をメインに紹介し多くの注目を集めたが、特に「華飾」技術に対する強い手応えを得た。

天昇電気がIPFで……

前回のIPF2014での天昇電気のブース来場者数は約450人だったが、今回は約1千人が来場した。特に今回は「華飾」技術を用いた華やかなブースを企画したこともあり、3年前とは変わった姿をアピールできたと実感、強い手応えを得た5日間であった。

華飾技術は、天昇電気が敢えて「加飾」の「加」を「華」として、「華々しく加飾する」という意味合いを込め、現在最も力を入れている技術。

プラスチックに彩を加える3次元表面華飾技術（TOM）や水圧転写技術、またカーボン生地への塗装などの各種塗装技術やホットスタンプなどの各種印刷技術などがある。

同社が保有するウェルドレス成形や高光沢成形などの高レベルな成形技術に、それらの華飾技術を組み合わせ、プラスチック製品に彩とともに華やかさを新たに付加価値として加え、天昇電気が誇る開発・設計から華飾までを一貫生産で提供している。

TOM、水圧転写技術など

主な華飾技術は次の通り。

【3次元表面華飾技術（TOM）】真空／圧空技術により、製品へフィルムを貼付・転写する技術。意匠にだけでなく、手触り感も表現し「視覚と触感を刺激する」のが特長。

【水圧転写技術】水溶性フィルムを使用し、水圧により絵柄を転写する技術。自然の力で彩りを添え、素材を生かしたデザインを表現するのが特長。

【カーボン塗装】同社独自の塗装技術を駆使し、カーボン繊維（炭素繊維）製品の表面の織り方の美しさを生かした鏡面仕上げの塗装技術。近年、自動車分野においてカーボン繊維が注目されていることから、加飾分野においてカーボン塗装技術についても注力している。自動車のみに特化せず、多分野に展開する天昇電気だからこその経験・ノウハウが生かされている。

【印刷／転写技術】スクリーン印刷、パッド印刷、ホットスタンプなど、様々な印刷／転写技術を保有している。平面、凹凸面、形状に合わせ、ノウハウを生かし、小さな物から大きな物まで、多機種に渡り、提案している。品格のあるワンポイントを添えるのが特長。フィルム華飾とのコラボレーションも可能。

【特殊成形技術】E－Mt&Coolなどの成形技術を用いて、塗装レスを実現し、漆器のような光沢感を表現する技術。

華飾で注目を集めた天昇電気の小間

雨水貯留浸透槽新製品も年内上市予定

また、天昇電気のオリジナル商品としては、昨今、突発的、局地的に発生するゲリラ豪雨がもたらす河川や下水の氾濫による被害を抑える雨水貯留浸透施設に使用する樹脂製ブロック材料の新製品である「テンレイン・スクラム」を発表した。

テンレイン・スクラムの特長は、従来の組み付け方法とは異なり、スクラム型に組むことにより槽全体の樹脂量を軽減、さらに互い違いに組み付けるため高い空隙率の実現を可能とし、またシートを使い分けることにより、浸透型、貯留型の2種類の形成を可能としている。

さらに、簡易的な点検口を数多く設置することが可能であり、製品重量も5・3kgと軽く持ち運びしやすい大きさのため、運搬効率が良く、施工も容易である。テンレイン・スクラムは年内上市予定。

なお、ホームページをリニューアルした。

https://www.tensho-plastic.co.jp/

――天昇電気の平成30年3月期第2四半期決算――

売上高は前年同期比0・9％増

営業利益4・3％減、経常利益は21・8％増

天昇電気工業（石川忠彦社長）は、このほど平成30年3月期第2四半期（平成29年4月1日～同年9月30日）連結決算をまとめた。

それによると売上高は、引き続き売上高拡大に向け営業部門の強化を図り既存顧客への更なる深耕、新規顧客の開拓、新規技術の開発等に注力した結果、前年同期比0・9％増の74億9、800万円の微増となった。

損益面では、営業利益は、生産設備の改善・更新による生産性の向上、徹底した工程改善、原材料効率化等の原価低減効果により、同4・3％減の5億9、300万円、また経常利益は、営業外収益に為替差益、営業外費用に支払利息を計上したこと等により同21・8％増の5億8、400万円となった。親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別利益に国庫補助金、特別損失に固定資産圧縮損を計上したこと等により、同104・3％増の4億円となった。

セグメントごとの状況は次の通り。

【日本成形関連事業】

自動車部品については、同第2四半期において新型車の量産開始もあり、堅調に推移した。物流産業資材や雨水貯留浸透槽製品の需要も引き続き好調に推移した。この結果、売上高は71億3、400万円（前年同期比0・9％増）、セグメント利益は減価償却費の増加等により4億2、200万円（同14・5％減）となった。

【中国成形関連事業】

中国国内では、物流産業資材及び機構品部品を中心とした売上拡大に向け注力しているものの、引き続き厳しい状況で推移した。この結果、売上高は1億5、300万円（前年同期比1・5％減）と販売不振が続いているが、セグメント利益は徹底した原価低減等により400万円と、前年同期の3、800万円の損失からプラスに転じた。

【不動産関連事業】

相模原市、伊賀市、伊那市の賃貸建物及び二本松市所在の土地から構成されており、売上高は2億1、000万円（前年同期2億1、100万円）、セグメント利益は1億6、600万円（前年同期比0・9％増）となった。同会計期間において伊賀市の不動産賃貸用土地建物を売却した。

通期予想は上方修正

平成30年3月期通期の連結業績については、第2四半期（累計）の営業利益などが当初予想を大幅に上回り、下期以降もこの状況は継続する見込みとして、5月に公表した通期の連結業績予想に対し売上高は変わらないが、営業利益6・5％、経常利益10・5％、当期純利益12・1％のアップと次の通り上方修正した。

ただし、前期比では売上高は4・1％アップの160億だが、営業利益は23・4％減の9億8、000万円、経常利益は25・3％減の9億5、000万円、親会社株主に帰属する当期純利益は32・6％減の6億5、000万円と予想している。

TENSHO

企画から設計～金型製作～成形～塗装～アッセンブリまで
一貫生産を実現するトータルエンジニアリングプラスチック

当社は創業以来、常にプラスチックの可能性を追求してまいりました。
これからもプラスチック業界のパイオニアとして「ものづくり」を支えてまいります。

プラスチックの歴史は
天昇電気工業の歩みです

天昇電気工業株式会社
本社　〒194-0005　東京都町田市南町田五丁目3番65号 天幸ビル17
TEL 042-788-1555（代表）http://www.tensho-plastic.co.jp

国内工場　福島工場・矢吹工場・群馬工場・埼玉工場・三重工場
海外拠点　China・USA・Mexico・Poland